

平成24年度酪農教育ファーム活動の概要

24年度においては、酪農教育ファーム活動の量的増大、面的拡大、質的向上に向けて、ファシリテーターの研修内容の一層の充実、酪農関係者と教育関係者のネットワークの拡大、酪農教育ファームの持つ教育的な効果の持続性や今後の酪農経営における可能性の検証などを行った。また、認証条件や制度の運営に関する検証や、諸外国で頻発する口蹄疫に対する防疫対策の徹底など、活動の基本となる事項についても留意しながら事業を実施した。

1. 酪農教育ファーム認証制度の適切な運営と認証審査

酪農教育ファーム認証牧場（以下、「認証牧場」という）や酪農教育ファームファシリテーター（以下、「ファシリテーター」という）を希望する人数は僅かながらも着実に増加しており、酪農家や関係団体は、酪農体験を通して行う子どもたちや一般消費者とのコミュニケーション活動に酪農理解を醸成する上で確実な手ごたえを感じ、大きな期待を抱いている。

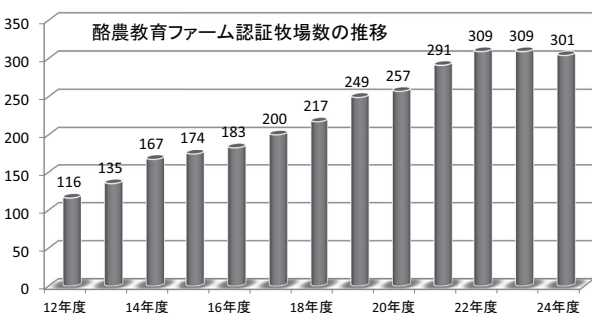
そこで、認証募集について指定団体に案内するとともに、業界誌等を通じて広く酪農家・関係者に告知した（募集期間は平成24年5月16日～12月10日）。続いて、認証申請のあった牧場を対象に地域推進委員会・指定団体を中心に現地審査を実施し、25年1月12日の認証審査委員会で牧場とファシリテーターの認証申請書について審査を行った。

（1）認証牧場

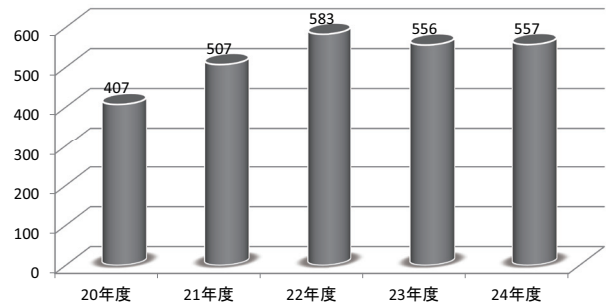
24年度当初の認証牧場数は309牧場であったが、うち25牧場が廃業（牧場閉鎖）や労働力不足、防疫への不安等によって減少し、新たに17牧場が認証を取得したため、24年度末には全国で301牧場（8牧場減）となった。

（2）ファシリテーター

24年度当初のファシリテーター数は556名であったが、うち60名が退職や認証期限満了等によって減少し、新たに61名が認証を取得したため、24年度末には全国で557名（1名増）となった。



酪農教育ファームファシリテーター数の推移



2. 酪農教育ファーム活動の参加者(団体)数

教育現場においては、23年4月から施行された新しい学習指導要領の下で学力向上を重視する傾向にあることから、「酪農」という題材の使用場面の制約・汎用性の狭まりが予想される。しかし一方で、「生命や自然を尊重する態度」、「体験活動の充実」などを含む「生きる力」の育成がますます重要視されており、それらの教育の基本理念を実現する手立てのひとつとして、酪農教育ファーム活動が子どもたちの学びに貢献できる可能性は、今後さらに高まることが推察される。

（1）認証牧場での受入実績

24年度上期は受入46,221件、652,258人でそれぞれ前年比257%、125%と大きく増加している。これは過去の調査のうち、2番目に多い人数である（過去最高は21年度上期の662,629人）。22年度上期に口蹄疫の影響で大きく落ち込んだ牧場での体験受け入れは、観光型の牧場を中心に以前の勢いを取り戻しつつある。

また、ほとんどの区分において、23年度・22年度を上回る実績を示しているが、とくに「外国人のグループ」の実績が大きく増加している。これは、北海道の観光型の牧場が大半を占めており、東日本大震災の発生後、一定期間は外国人の来訪者が著しく減ったという報告が多くみられたが、観光地の牧場を中心に海外からの訪問者が増加傾向にあるのではないかと推察される。さらに、個人・グループの受入についても、21年度水準には至らないものの回復傾向がみられる。

このような状況の中で、24年度上半期に受入が全くな

かったと報告のあった牧場が45牧場あり、その理由のほとんどが「家畜伝染病の脅威から」というものであった。23年度同時期は54牧場の実績がゼロであったので、

これまで自粛していた牧場が24年度に体験受入を再開した傾向はみられるが、再開した牧場からも「口蹄疫が不安」という声は多く聞かれる。

認証牧場での区分別受け入れ実績の推移(上期)

年度	24年度						23年度		22年度		
	区分	件数(件)	23年度 対比	22年度 対比	体験者数 (人)	23年度 対比	22年度 対比	件数(件)	体験者数 (人)	件数(件)	体験者数 (人)
上期	幼稚園・保育園	805	180.9%	435.1%	49,340	133.0%	444.1%	445	37,102	185	11,109
	小学校	1,304	109.6%	195.2%	73,967	96.1%	171.5%	1,190	76,952	668	43,121
	中学校	859	120.5%	233.4%	52,078	99.8%	227.9%	713	52,165	368	22,847
	高等学校	486	192.1%	368.2%	15,038	148.2%	145.6%	253	10,149	132	10,327
	大学・専門学校	305	124.5%	269.9%	7,913	145.8%	223.8%	245	5,427	113	3,535
	特別支援学校	236	154.2%	233.7%	6,699	160.2%	252.8%	153	4,181	101	2,650
	子ども会などの団体	1,431	157.1%	394.2%	48,000	156.3%	375.1%	911	30,701	363	12,797
	学校などの団体	5,426	138.8%	281.1%	253,035	116.8%	237.8%	3,910	216,677	1,930	106,386
	個人・グループ	40,287	288.3%	210.1%	388,393	127.5%	513.0%	13,972	304,667	19,171	75,707
	外国人のグループ	508	493.2%	-	10,830	784.2%	-	103	1,381		
	その他	0	-	0.0%	0	-	0.0%	0	0	58	8,480
全体合計	46,221	257.0%	218.4%	652,258	124.8%	342.3%	17,985	522,725	21,159	190,573	

注1：上記は報告があった数字。24年度と23年度の調査回収率は約90%。22年度については回収率約95%。

注2：区分において「外国人のグループ」を調査したのは23年度から。

(2) 出前授業の実施実績

24年度上期は出前授業を実施したファシリテーターが43名、実施件数は134回となり、とくに学校などの団体においては全体的に減少傾向にある。これは、23年度までに前出授業による体験を牧場での体験に切り替えたことや、これまで多く出前授業を実施していたファシリテーターが24年度に認証を辞退したこと等が理由として考えられる。なお、23年度と比較すると、24年度上期は子ども会などの団体とイベント会場での出前授業の体験者が多かった。

3. 酪農家と教師の「出会いの場」作りのための研究会や情報交換会

23年度に引き続き、酪農教育ファーム地域推進委員会が主体となって、認証牧場・ファシリテーターと教育関係者の「出会いの場」としての、酪農体験等を交えた共同の研修会、研究会、情報交換会を開催した。また、近畿地域においては、核となるような教育関係者・学校の掘り起こしを目的として、大阪府立浜寺小学校1年生及び5年生を対象とする教科横断的なカリキュラム開発を行った。

4. ファシリテーターのスキルアップ研修会

スキルアップ研修会を全国5か所で実施した。ファシリテータースキルを磨くためのテーマを3パターン設定し、教育関係者の基調講演と併せて、参加者相互の学びあい(グループディスカッション)により研修を実施した。また、口蹄疫に対する防疫対策を中心に、交流活動

における安全・衛生対策についても再確認した。なお、認証期限が満了となる119名のファシリテーターのうち、研修受講により77名の認証期限が3年延長された。

5. 活動効果の検証

酪農教育ファーム活動の効果を検証するため、①酪農体験活動が子どもに与える教育的効果に関する調査研究～酪農体験活動を行った子どもの追跡調査を通じて～(研究者：大妻女子大学家政学部児童学科 石井雅幸准教授、広島大学大学院教育学研究科 木下博義准教授)、②酪農教育ファーム認証牧場における後継者の経営意識と行動に関する調査研究(研究者：千葉大学大学院園芸学研究科 大江靖雄教授)、③牧場での体験が親子の食や食生活に及ぼす教育的効果の検証(研究者：学習院女子大学国際文化交流部 品川明教授)を実施した。

その成果として、①10年程前に酪農体験を経験したことがある方に対する追跡調査では、酪農体験の経験者は「酪農」、「牛乳」に対して明らかにポジティブな意識を持っていることが確認され、酪農体験の効果が持続的であることが示唆された。②認証牧場の後継者を対象とした調査では、「拡大アイデンティティ」を有するためには、就農前の研修内容と就農後の酪農家ネットワークを活用した社会学習の重要性が指摘され、今後の酪農教育ファームの方向性を議論する際の大きな検討材料を得ることができた。③親子を対象とした「食」に関する意識調査については、酪農体験で「家畜」の意味を理解することが「食といのちの結びつき」につながることで改めて確認された。